# 国立大学法人東京外国語大学
# 第 99 回経営協議会議事要旨

Ⅰ．日　時：2026（令和８）年１月 30 日（金）　13：30 ～ 15：58

Ⅱ．場　所：ハイフレックス形式（本部管理棟２階中会議室とオンライン）

Ⅲ．出席者：(1)委　員：犬飼委員、木部委員、坂本委員、田中委員、寺田委員、
ﾏｰｸ・ｳｨﾘｱﾑｽﾞ委員、山口委員、吉富委員、春名委員、武田委員、
木下委員、江利川委員、藤縄委員、伊集院委員、近藤委員
（以上 15 名）

(2)陪席者：青山副学長、中山副学長、菊池副学長、大津学長特別補佐、
三宅言語文化学部長、千葉国際社会学部長、柄監事、井澤監事、
佐々木総務企画部長、安部田会計課長、鎌田人事労務課長　外

Ⅳ．審議事項：１．就業規則関係規程の一部改正について
２．その他

Ⅴ．報告事項：１．令和８年度国立大学法人運営費交付金予定額等について
２．令和６年事業年度における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について
３．中期計画の変更の認可申請について
４．国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し等に関するワーキンググループによる各法人とのヒアリング・意見交換について
５．大学の近況等について
６．その他

Ⅵ．懇談事項　１．大学間連携について
２．その他

Ⅶ．配付資料：１．国立大学法人東京外国語大学第 98 回経営協議会議事要旨（案）
２．就業規則関係規程の一部改正について
３．令和８年度国立大学法人運営費交付金予定額等について
４．令和６年事業年度における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について
５．国立大学法人東京外国語大学の中期計画新旧対照表
６．国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し等に関するワーキンググループによる各法人とのヒアリング・意見交換について

７．TUFS 新着ニュース
８．【懇談事項資料１】：四大学未来共創連合 －大学連携教育－
９．【懇談事項資料２】：四大学未来共創連合キックオフシンポジウム
10．【懇談事項資料３】：大学間連携の取り組み

春名学長から、配付資料１に基づき、前回の議事要旨（案）を確認願いたい旨、発言があり、これを確認した。

Ⅷ．審議事項：

１．就業規則関係規程の一部改正について

木下理事・事務局長から、配付資料２に基づき、就業規則関係規程の一部改正について説明があり、審議の後、これを承認した。

Ⅸ．報告事項：

１．令和８年度国立大学法人運営費交付金予定額等について

安部田会計課長から、配付資料３に基づき、令和８年度国立大学法人運営費交付金予定額等について、報告があった。

２．令和６事業年度における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について

安部田会計課長から、配付資料４に基づき、令和６事業年度における剰余金の翌事業年度への繰越しに係る承認について、報告があった。

３．中期計画の変更の認可申請について

春名学長から、配付資料５に基づき、文部科学大臣に対する中期計画の変更の認可申請について、報告があった。

４．国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し等に関するワーキンググループによる各法人とのヒアリング・意見交換について

春名学長から、配付資料６に基づき、国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し等に関するワーキンググループによる各法人とのヒアリング・意見交換について、報告があった。

５．大学の近況等について

春名学長から、配付資料７に基づき、大学の近況等について、報告があった。

Ⅹ．懇談事項：

１．大学間連携について

始めに、本学の大学間連携について、春名学長及び武田理事・副学長より、配付資料８から 10 に基づき、説明があった。

説明の後、大学間連携について、懇談が行われた。委員からの主な意見等は次のとおり。

・「TUFS 新着ニュース」等を見ていても、いろいろな言語で学生が発表したり、活動したりということが実績として取り上げられており、本学のコアバリューは、そこが 1 つのアセットとしてあるのかなと思う。しかし、2040 年を考えたときに、今までの言語というアセットが、本学の価値の何割を占めるのかということを考えていくと、多分今よりも言語そのものへの専門性から、より学際的なところに価値があるという大学として社会的な評価を確立していかないといけないのではないか。

・複数の大学からリソースを持ち合って、試験的にいろんな話題を検証し、学生の反応を見ることができるような、そういう 4 大学とか 3 大学とか複数大学が連携する協調領域というのは非常によいテストフィールドになるのではないか。本学の柱として押し出していくに当たっての準備というか、いろいろな設定、コンセプトの磨き上げなどもできる思うし、そういう意味で、非常に可能性があるところなのかなと思う。また、国内外の人文社会科学系の大学間で、どのような戦略を持っているか、意見交換を行うことも有益だと考える。

・先ほどの文部科学省のヒアリングの話で、専門人材の輩出、高度専門人材の育成というところをアピールポイントとして選ばれるとのことであった。このプロセス自体は、対文科省向けのアピールだと思うのだが、結局、最終的には社会に対してどうアピールするかということだと思う。それを考えたときに、具体的に本学が目指す専門人材はどのようなものを描いているのか。

・先ほど話があった四大学未来共創連合の大学院共同教育プログラムで、具体的な分野を例示していたが、多様性、環境、インクルージョン、気候変動など、それぞれとても重要で、とても魅力的だが、こういう国際戦略環境とか、国際連携という分野には、トレンドがある。この先伸びるというか、今、注目されている分野というのがあると思うのだが、気候変動、環境、インクルージョン、多様性というのは、その重要性は変わらずとも、ややトレンドが過ぎていると見受けられる。

・少子化の中で、大学の淘汰がいろいろ行われていく。本学も、その流れには無縁ではないという中で、やはりキーワードは学長が仰ったグローバル・プロフェッショナルの育成に向けて、どう魅力をつけていくか、本当に力をつけていくか、それから、ナラティブをどうつけていくかが重要である。

以　上